

スクールのホットライン

志水つ子 飛躍のとき

from 志水小学校

九月二十四日(日)、絶好の運動会日和でした。晴天の下、志水小学校運動会を行うことができました。

ラジオ体操で始まり、紅白対抗リレーで締めくくられたプログラム。一・二年生の元気いっぱいかわいらしいダンス、三・四年生の棒を引く力強いふんばり、五・六年生の集団で魅了する迫力のある演技、声と気持ちを合わせた全校応援合戦等、見ごたえたっぷりではなかったでしょうか。保護者や地域の皆様、応援ありがとうございました。

【元気いっぱい！
ひっぱりっ子】



【笑顔で“タッタ”】

親子で行う競技では、競技でのやりとりは勿論のこと、親子並での入退場は小学校ならではの温かな風景でした。また、午前の部最後の「全校親子手話」でも、子どもの手話を見ながら、お父さんお母さんが熱心に手話をされており、大変微笑ましく感じられました。



【心をひとつに】

最後の紅白対抗リレーでは、バトンパスを熱心に練習した結果、白熱した戦いが繰り広げられました。赤白の総合得点の結果では、白組優勝となりましたが、精いっぱい力を発揮した子ども達は、充実した満足感でいっぱいの表情でした。五・六年生は最後まで後片付けをしっかり行い、元気よく下校していきました。

二期期初めの大きな学校行事。一人一人が目標をもって臨み努力する中で、確実に成長をすることができました。これからも自分の役割に責任をもち、集団で成し遂げることを通して、自己有用感を育んでいきたいと思えます。

私の航空史

岡野允俊

工場用地調査(2)

幸い当時の小牧飛行場のレイアウト図が焼かれずに残っていたので、それを持って米軍のAIC(施設部隊)を訪れ、事情を説明して何とか協力してもらいたいと頼んだ。

Mr. Honda という二世の人が力になりたいと米軍の図面を引つ張りだして調べてくれた。それと我々が持参した図面とを照合してみると食い違いがあり、ちょうど西北の隅に四角のエリアが発見された。我々が「ここは使用していないのか」と質問すると、「今のところは使用していない。しかしいつ使うようになるかも知れぬ。手を打つなら早い方がよい」といわれ早速現地調査に乗り出した。

一面芋畑であったこの地(現在の小牧南工場)の現状を調べにいった。しかし、あまり滑走路に近づくが発砲されるかもしれぬと驚かされ、現在の社会教育センター東付近でこっそりと数枚の写真を撮って帰った。話

ほとんど拍子に進み、小牧飛行場には米軍が使用していない約八万五千坪の空き地があることを確認した。

早速その土地の所有者を調べたが判らない。旧陸軍の用地であれば現在は大蔵省の所有地であろうと東海財務局に行つて調べたが、「小牧にそんな未使用の国有地があるはずはない。全部米軍への提供物件である」という。もしこれが事実であれば拾得物扱いか、などと冗談を言いながらさらに調査を進め、今度は豊山村役場を訪れ、村長、村会議員にその間の経緯を聞くとともにその通りであった。

この土地をリリースする旨、昭和二十五年頃、米軍の中佐が出した文書のコピーまで出てきた。村では畑の少ない現況から村全体の共同管理下に置き、計画的に畑作をし、しかもそれが豊山村唯一の畑作であると聞かされた。かくてようやく飛行場隣接のオバーホール工場としての候補地を見つめることができたのである。その後、八万五千坪の土地買収にあたり、大蔵省東海財務局との価格交渉、地元民との農作物保障問題を一つ一つ解決して国有地の払い下げが実現した。

特集

町政あんない

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ